

令和7年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立辻小学校）

学校番号 024

【様式】

学校教育目標	「豊かな心をもち、実践力のある子」の育成
目指す学校像	「愛情と信頼に支えられた、夢と希望をはぐくむ学校」 学べてよかったです 地域とともにある学校・通わせてよかったです 勤務してよかったです
重点目標	1 情報端末を活用した学びの自律、個別最適化と協働的な学び、探求的な学びの充実 2 深い児童理解に基づく生徒指導と関係機関と連携した心のサポート体制の充実 3 コミュニティ・スクールとしての理念・方策の共有とスクール・コミュニティとしての実践 4 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 5 実践的な教職員研修と一人ひとりの教職員が支え合い、高め合う、同僚性の高い職場の実現

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的な方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的な方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果では、国語、算数ともに全国平均よりやや高く市平均と同程度の結果である。 <課題> ○国語の話すこと・聞くこと、算数のデータの活用にやや課題がある。 ○読書習慣に関する項目で全国、市と比べ平均より上回っているが個人差がみられる。	・一人一台端末の活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実	①各教科等のねらいの達成に向け、一人一台端末を積極的、効果的に活用し「学びのポイント(じ・し・や・ク)」の視点に基づく個別最適な学びに向けた授業改善を行う。 ②不読率の改善に向け、学校図書館等と連携を図り、朝読書をはじめとした読書活動を推進する。	①児童が行う「学びの指標」アンケートの調査結果による平均値が、3.4ポイント以上とすることができたか。さらに、児童が行うワークテストの平均点が、90点以上とすることができたか。 ②読書環境を整備し、学校図書館の貸出冊数が、1人52冊以上とすることができたか。			学校運営協議会からの意見・要望・評価等
2	<現状> ○学校自己評価に係る児童アンケートで「毎日、元気に登校している」「いじめや仲間はずれなどせず友だちと仲良くできている」の肯定的な回答が95%以上となっている。 <課題> ○家庭や地域をはじめ、様々な関係機関と連携を図ることで児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に対応・支援をしていく。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援と相談に向けた校内支援体制の整備	①心と生活のアンケートやおはようメーター、教育相談日等を実施し、面談等の記録を蓄積して、継続的に把握できるよう児童理解に努める。 ②常時委員会を中心として、生徒指導部、教育相談部、特別支援教育部、SC、SSWと連携を図り、迅速かつ誠実で組織的な対応を行う。	①アンケートの実施後や必要に応じて速やかに面談等を行い、保護者等と連携を図ることができたか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートで「先生に困ったことや悩んでいることを相談できる」への肯定的な回答が80%以上、保護者アンケートで「相談や要望に対して誠実に対応している」へのA回答が50%以上とすることができたか。			
3	<現状> ○運営協議会で、「かかわりあい・協働」をテーマに家庭、地域、学校(小・中・高)が連携しながら児童の心を育てていくことを共有した。 <課題> ○子どもの健全育成のための「かかわりあい・協働」に向け、学校運営協議会において児童会と連携を図るなど学校、家庭、地域との結びつきをより一層強める。	・主体的な児童を育てるためのコミュニケーション・スクールを通した保護者・地域とのより一層の協働	①小・中・高・地域で連携した魅力ある事業を引き続き実施し、児童の地域に対する愛情を醸成する。 ②学校運営協議会の情報や学校行事等について、学校に関わる人々がHP上で閲覧できるようにする。目指す児童の姿等を広く家庭や地域と共有できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①学校自己評価に係る児童アンケートで「様々な地域の行事に参加する」への肯定的な回答が、85%以上とすることができたか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が、70%以上とすることができたか。さらに、HPにコミュニケーション・スクールのページを新設し、年3回以上の更新を行なう。			
4	<現状> ○施設の瑕疵等による児童のけがは起こらなかったが、施設の老朽化が進んでいる。 ○学校における情報資産を適切に取り扱っている。 <課題> ○事故防止に向け、定期的な施設の点検と危険な箇所の修繕を進める。 ○教育情報セキュリティ確保に努め、安心・安全な教育環境を維持する。	・情報セキュリティに係る定期点検、施設設備の点検と修繕の徹底、迅速化	①点検項目の共通理解を図り、毎月の安全点検日に全教職員で実施する。管理職が毎日点検を行い、危険箇所や修繕箇所を早期発見し、その都度関係機関と連携を図り、迅速な対応を行う。 ②チェックシートを活用し、学校における情報セキュリティ遵守の状況を毎月の月末に自己点検する。	①危険・修繕箇所の発見から対策を立て、1か月以内に改善に向けた対応を実施することができたか。 ②情報資産に係る事故の絶無に向け、「さいたま市教職員情報資産取扱いマニュアル」等の内容を基に、学校における情報資産の取扱いについて、全教職員が遵守することができたか。			
5	<現状> ○ICTの効果的な活用に向け、情報端末やアプリ等の活用法について研修を重ねてきた。 ○会議の精選やデジタル化、ペーパーレス化をはじめ、業務改善に取り組んでいる。 <課題> ○逐次アップデートされる教育DXに適応できるよう、組織的に取り組む必要がある。 ○教科担任制等で高まった同僚性を活かし、より働きやすい職場にしていく。	・同僚性を高めたWeb-basedな職場環境の構築と業務改善	①会議資料のデータ化やチラシなどの配付物のWeb化を進める。校務用端末を効果的に活用するなどして、校務のICT化による業務改善を推進する。 ②管理職が率先して職員室の同僚性を高め、支え合い、高め合う職員集団にする。	①教員等の勤務に関する意識調査で「学校業務改善の取組」への肯定的な回答が、90%以上とすることができたか。 ②教員等の勤務に関する意識調査で「風通しのよい職場である」へのA回答が、70%以上とすることができたか。			